

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和5年2月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091400048		
法人名	社会福祉法人 中庸会		
事業所名	グループホーム天美苑Ⅱ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	640-0441 和歌山県海南市七山828		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.tenbien.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物の天井が高く開放的で、窓も多く快適な光環境の中、安心して生活して頂けます。また、ユニットの間にはウッドデッキもあり、外気にふれやすい環境となっています。</p> <p>ご利用者に住み慣れた地域で安心した生活を送っていただけるよう、コロナ禍であっても地域交流を図っています。具体的には、ご利用者が作られた手芸作品を和歌山市や海南市で展示し鑑賞に行ったり、自治会の方と連絡を取り合い、地域の清掃活動に参加しています。</p> <p>ご利用者がこれまで暮らしてきた生活を継続できるよう、自宅で使用されていた食器や家具などを当事業所でも継続して使用していただいています。</p> <p>運営推進会議では、コロナ禍で書面開催が続いていますが、書面内容をよりわかりやすく記載し事業所の透明性を図っています。</p> <p>ご利用者の終末期に関して、ご利用者、ご家族の意向に沿って、看取り介護や転院転居等の支援を行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>建物は木造の平屋でバリアフリーになっており、天井が高く、開放感があり、家庭的な環境の中、2ユニット18名で生活されています。又、ウッドデッキがあり、気候が良い日は、日向ぼっこをされています。かかりつけ医の協力の元、看取りケアを行っています。早い段階から利用者、家族と話し合いがなされ、本人及び、家族が希望する時には最後まで自然な形で生活が送れるように支援されています。コロナ過の中でも、地域の清掃活動に参加されたり、利用者の方が作られた作品を地域の図書館に展示され見に行かれたりと、地域の方との繋がりを大切にされています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示するとともに、朝の申し送り時に理念を唱和し、行動指針を職員間で共有、確認しながら援助を実践している。	理念を見やすい場所に掲示し、朝の申し送り時に理念を唱和され理念を共有されています。又、会議などでも理念を基に話されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前に比べ、行事は減少しているが、コロナ禍であっても、地域で手芸作品を出展し鑑賞に行ったり、自治会の方と交流し、清掃活動に参加させて頂いている。	コロナ禍でも地域の清掃活動に参加されたり、地域の展示会に作品を出展し、見に行かれたりと地域との交流を大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	海南市キャラバンメイトに参画し、サポーター養成講座を一般市民、学生等を対象に行い、認知症の啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催が続いているが、事業所の活動状況、事故ヒヤリハット内容、身体的拘束適正化のための勉強資料等をまとめ、全推進員、ご家族に送付している。	運営推進会議はコロナ禍で2か月に1回書面にて開催されています。活動状況や、事故やヒヤリなどを報告されています。報告した内容についても家族や市の職員からも意見をもらい、サービスの向上に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	保険制度等で不明な点があれば、電話やメールで各担当者に確認している。また、海南市キャラバンメイトにも参画している。	市の職員とは運営推進会議以外にも介護保険の事や生活保護の件で連絡されたりと、普段からも何かあれば相談できる関係性になっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体的拘束予防に関する資料を毎月作成し、職員の知識向上を図っている。GH運営推進会議、苑全体でも会議、研修を行っている。日中、離施設のリスクがあるため、玄関にセンサーを設置させて頂いている。	毎月身体拘束についての資料を作成し書面での研修を行ったり、苑全体での研修に参加されたりと、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を苑全体で行い、虐待に関する理解、知識向上を図っている。また、権利擁護推進員研修を修了し、GH内での内部研修も行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>金銭管理等に関して、ご家族の協力を得られない状況であれば、海南市に相談している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関して、ご利用者ご家族がご理解されているか、確認しながら締結、同意を図っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ過でご家族と直接対面する機会が減っているが、ご家族来苑時や電話時に、以前よりもコミュニケーションを図りご意見を確認する努力を図っている。</p>	<p>状態に変化があれば、連絡をしたり、面会時にも、意見などを聞かれています。又、毎月ホーム内の様子を写真と手紙で報告されています。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃から職員とのコミュニケーションの中で、職員の意見、提案を聞くよう心掛けている。また、半年に一回、個別面談も行い、普段話せない不安等の傾聴も図っている。</p>	<p>日頃から何でも話せる関係作りがされており、日常的に意見が出されています。又、半年に1回面談を行い、普段話せない話しを聞く機会を設けています。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格取得、研修受講を推進し、費用負担を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修、施設内研修の受講を計画的に実施している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>キャラバンメイト活動や地域密着型ケア会議等に参加し、新たな情報を積極的に取り入れるように心掛けている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族に生活史アンケートを記入して頂き、その情報をスタッフ間で共有し、困りごと、不安の軽減を図っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご家族の意向等を確認し、不安の軽減を図っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を確認した上で、生活課題の改善を図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にレクリエーションを行ったり、日々の会話の中で意向を確認する等、馴染みの関係づくりに努めている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の体調等で変化があれば積極的に連絡させて頂いている。近況報告の写真、お手紙も定期的を送付させて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で外出の頻度や、知人との交流が少なくなっているが、感染状況を見ながら、直接面会、ウェブ面会や外出の機会を作っている。	ドライブで地域の図書館に行かれ、展示された作品を見に行ったり、以前から行かれていた町医者に家族の送迎で行かれたりと、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係が良好となるよう、集団レク等を実施している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもご家族からご質問やご相談があれば丁寧な支援を行うよう留意している。GHで亡くなったご利用者のご家族で、定期的にお手紙を頂くこともあり、都度電話連絡させて頂いている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>状態に変化があった際は、本人家族に意向の確認を行っている。意思疎通が難しい利用者は、表情や言動を観察し可能な限り本人本位に沿った援助を心掛けている。</p>	<p>入所前にアンケートにて本人や家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前に、ご家族に生活史アンケートを記入して頂き、暮らしの継続を図っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々のニーズを把握し、状態に応じて援助している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者、ご家族の意向を確認し、現在の生活課題、今後のリスク等について検討し、介護支援計画に反映させている。</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングを行い、6カ月に1回ケアプランの見直しを行っています。状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気になる点や変更等があれば、申し送りノートを活用し情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者の状態に応じて、必要なサービスを検討し、専門職、関係機関に相談している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ご利用者が作成された手芸作品を地域の図書館に出展し鑑賞に行っている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族が納得された上で、かかりつけ医の受診、往診の支援に努めている。ご家族付き添いで受診が難しい場合は、職員が同行している。	本人、家族と相談し希望するかかりつけ医になっています。ご家族が無理な場合は通院介助も行われています。協力医療機関が、かかりつけ医の場合は毎週の往診があり、適切な医療を受けられる支援がされています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	特養の看護職員に相談、協力を得て連携体制を構築している。契約担当看護職員以外でも必要な時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	電話連絡やカンファレンスを通じて、担当者との良好な関係づくりを図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に重度化、終末期の対応方法について書面を用いて説明している。また、重度化された場合や老衰等による衰弱が考えられる場合は、ご家族に相談し希望に応じた援助を行っている。	看取り介護が行われており、入所時又は状態の変化があった場合に再度確認がされ同意を得られています。医師とも24時間の連絡体制があり、安心して看取りが出来る体制になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用いて指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、日中、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また、停電時に備えて、発電機やランタン、ガスコンロ、一週間分の食料を備蓄している。	年2回消防署の協力のもと日中、夜間の避難訓練が行われています。連絡簿の作成や何か災害があれば同法人の特養や近所の方との協力体制が整っています。災害に備えての備蓄も食料以外にも多く備えられています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>家庭的な環境がゆえに、言葉かけが親しみを越えた馴れ馴れしさになることがあるため、気になる声かけがあれば、都度、権利擁護を基に指導している。また、虐待防止の内部研修で学んでいる。</p>	<p>言葉かけは親しみのある人格を尊重した声かけが行われています。馴れ馴れしくならないように、またそのような場合があれば、その都度、権利擁護を基に指導されています。</p>	<p>さらに言葉かけについて、全ての職員がその人、その場に合った配慮が出来るよう検討されています。今後の対応に期待します。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の意向を確認し、意向に沿った支援ができるよう日々対話に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者一人ひとりのペースを尊重しながら支援するよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>月1回の訪問理美容を利用して頂いている。起床時は身だしなみを確認させて頂き支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の食器を使用して頂き、家庭的な環境に近づけている。食事前は、嚥下体操も実施し、嚥下機能の維持も図っている。また、ご家族や地域の方から頂いた果物も提供させて頂いている。</p>	<p>食事は委託になっていますが、業者と相談し季節の物や行事食、好き嫌いなどにも対応され、ご飯や汁物は作られています。個人の食器等も使用されており、また家族や近所の方から頂いた物を提供されており、食事を楽しむ支援が行われています。</p>	<p>今後、おやつ作りやコロナ禍が落ち着けば外食なども考えておられ、今後実現出来るよう期待します。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>1日の食事摂取量、水分摂取量を毎日確認し、摂取量が少なければ、援助内容を見直したり、医師に相談し改善を図っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>それぞれの口腔環境に応じて口腔ケアを行なっている。状態に変化があれば往診に来られる歯科医師に相談している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を参照し、排泄パターンを把握している。特に緩下剤の使用による便失禁の頻度が減少できるよう、水分摂取量に留意し支援している。	排泄表を使用し個々の排泄パターンの把握に努め可能な限りトイレでの排泄が出来るように対応、支援がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、水分摂取量に留意している。また、医師、看護師に相談しながら、緩下剤の使用内容、量に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのその日の状態や意向に応じて入浴して頂いている。拒否が強い方は無理強いせず時間や日程をずらすなど対応している。	基本週2回の入浴になっていますが、入浴日を決めるのではなく、本人の意向に添い入浴支援がされています。入浴が出来ない場合は清拭で対応されています。また、ゆず湯など季節の物を取り入れ、入浴を楽しむ支援がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、日中の静養時間を決めている。不眠傾向の方には日中の活動量を増やすためにレクリエーションにも参加していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等を把握した上で、変化や副作用がみられた際には、随時医師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活史アンケートでご利用者のできること、好きな事を理解し支援している。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出頻度が減少しているが、天気の良い日は戸外を散歩していただいたり、感染状況に留意しながら、ドライブや展示品の鑑賞に出かけている。	コロナ禍で外出が難しい中でも閉鎖的にならない様に、天気の良い日は苑内を散歩して外気に触れる機会を増やし季節を感じれるよう支援されています。また、感染状況に留意しながら、ドライブや作品展の鑑賞に出かけられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の価値を認識、理解されている方には所持して頂き、管理が困難な方は事務所で預かり管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば、手紙の送付、電話連絡の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の室温、音、光が快適となるよう配慮している。また、季節を感じて頂ける飾りつけも行っている。	共有空間は家庭的な空間になっており、季節の飾り物や、入居者が作られた作品が飾られています。また入居者の状態に合わせて定期的に配置も見直され、居心地良く過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるダイニングでは、一人ひとりが快適に過ごしていただけよう、テーブルやイスの配置を定期的に見直している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室、南向きで日光が入る暖かい環境となっている。暮らしの継続ができるよう、ご利用者の使い慣れた馴染みの物を居室に配置することできる。	持ち込みの制限は無く、写真やタンス等、慣れ親しんだ物を本人や家族と相談し持って来てもらい配置されています。全室南向きで日光が入り暖かい空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな環境内で、洗濯たたみや掃除等を自立支援を行っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない